

〔論文〕

## コロナ禍における実習指導の変化と実際 —アンケートからみえる今後の課題と検証—

長橋 幸恵・多田 鈴子・瀬 志保

### はじめに

コロナ禍とは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が拡大するとともに、2020年3月半ば頃から、わが国において広く用いられるようになった用語である。新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかで、政府は、4月16日、特別措置法に基づく緊急事態を全都道府県に宣言した。期間は5月6日までとし、同日夜、官報特別号外に掲載され、効力が生じたのである。新型コロナウイルス感染症の「特定警戒都道府県」として、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県の7都府県が指定された。また、その後、北海道、茨城県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府の6つの地域も新たに追加された。緊急事態宣言自体は、当初の5月6日から延長され、5月25日ようやく解除が全国的に宣言されたのである。

最近の動向については、2020年11月現在、わが国の累計感染者数は、103,408人であり、死亡者数は、1,794人である。大阪城南女子短期大学（以下は本学とする）が位置する大阪府は、特定警戒都道府県に位置づけられ、2020年11月現在の累計感染者数は、13,191人であり、死亡者数は、247人。近畿地方では、最も高い割合になっている。これらの人数は、新聞やテレビやインターネットを通して、毎日その数の変化が報告されている。

2020年6月1日に発表された文部科学省および厚生労働省による「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」では、弾力的な運営と学校再開の際の十分な注意を各機関に呼びかけた。本学では、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、入学式は行ったが、前期開講の当初から、対面授業ではなく、オンラインを使用した遠隔授業を導入することを決定し、実施した。その後、6月初旬からは対面授業に切り替えて、講義を開始した。実技の授業においては、人数は半分にし、フェースシールド、手袋、消毒をしっかりと行い授業を行った。さらに、毎年開催していた実習指導者会（4月28日予定）を中止し、6月に計画されていた学生の実習についても時期の変更を決定せざるを得ない状況となった。

本稿では、今回のコロナ禍によってもたらされた本学の実習カリキュラムへの影響を総括し、今後起こりえる第二波および第三波の状況に対応する上での課題を示すことが目的である。以下、

本学における実習再開までの準備や施設への働きかけの内容を述べ、施設へのアンケート結果の集計および分析を通して、今後のコロナ禍での実習のあり方を明らかにしたい。

## 第1章 実習再開への準備

緊急事態宣言2020年4月7日より5月21日緊急事態宣言を解除の間は、人間福祉学科1回生と専攻科介護福祉専攻の介護実習のコロナ禍での在り方を検討する必要性があった。

新型コロナウイルス感染症拡大により、2020年度の実習時期・期間・内容に関して変更し、考える必要があった。緊急事態宣言もあり、介護実習を本学でどのような状況で、再開するかに関しては、人間福祉学科・専攻科介護福祉専攻で介護を担当する長橋幸恵、多田鈴子、瀬志保が月に1回実習エリア会議している。そこで実習エリア会議で、実習の再開を検討した。

まずは6月に実施予定であった介護実習ⅠA（人間福祉学科1回生）、介護実習Ⅰ（専攻科介護福祉専攻）に関しては、実習期間を検討しなければならなかった。6月の介護実習に関しては、当初より実習の承諾を得ていたが、同月中は中止とした。本学では、6月より対面授業が始まり、9月から介護実習を再開できるよう、リスクマネジメントにも留意し、準備をした。

以下は、コロナ禍による実習期間の変更を一覧するものである。

### 人間福祉学科1回生

介護実習ⅠA

2020年6月9日（火）～6月24日（水）12日間 → <sup>変更</sup>2020年9月7日（月）～9月18日（金）10日間

介護実習ⅠB

2020年10月20日（火）～11月6日（金）12日間 → <sup>変更</sup>2020年10月20日（火）～11月6日（金）12日間

### 人間福祉学科2回生（以下、変更点なし）

介護実習Ⅱ

**前半** 2020年9月23日（水）～10月2日（金）8日間

**後半** 2020年10月20日（火）～11月6日（金）14日間から2020年10月20日（火）～11月6日（金）13日間

### 専攻科介護福祉専攻

介護実習Ⅰ

2020年6月9日（火）～6月24日（水）12日間 → <sup>変更</sup>2020年9月7日（月）～9月25日（金）15日間

介護実習Ⅱ

2020年9月8日（火）～10月2日（金）19日間 → <sup>変更</sup>2020年10月19日（月）～11月6日（金）13日間

とした。できる限り、9月、10月で所定の実習日数が充足できるよう施設側へお願いし、受け入れ

の体制を整えてもらう必要上、以下の①から⑤の5項目を事前に実習エリアで検討した。

- ①コロナ禍におけるガイドライン
- ②同意書
- ③健康チェック表
- ④実習内容確認表
- ⑤臨時実習指導者会

施設側にコロナ禍においての実習内容を理解して、安心して実習の承諾を得られるように配慮した。介護実習の承諾施設へは、双方からの意見交換の必要上、説明を①から④の資料をあらかじめ送付し、手元に置き電話にて説明をした。

### ①コロナ禍におけるガイドライン

コロナ禍におけるガイドラインは、本ガイドラインは『介護実習マニュアル』（介護実習マニュアルとは、介護実習・介護総合演習のテキストの機能を備えたものである。実習際しての細則も盛り込んだ指針としての役割がある本学独自の実習のマニュアル本）の内容に準拠しており、その附則の位置づけである。特に、コロナ禍での介護実習を遂行するあたり、配慮すべき変更点、本学の実習教育内容並びに介護実習において施設側にお願いする項目を整理したものである。尚、本ガイドラインは、2020年、8月1日より有効とすると明記した。

## 1. 介護実習の概要

- ①開始時期・期間…8/6に健康診断を実施し、結果を持参出来る9/7以降、順次開始とする。
- ②オリエンテーション…実習初日に併せて設定することを希望。
- ③実習時間…介護実習Ⅰ段階 13-16時 介護実習Ⅱ段階 10-16時  
時間を短縮。
- ④服装（p15参照）…通学着（制服を含む）と実習中の服装（演習着や上着等）は分けることとし、毎日洗濯する。行き帰りはマスクを着用義務とする。
- ⑤持ち物…使い捨て手袋、手指消毒スプレー、必要に応じてフェースシールド持参。
- ⑥通学…公共交通機関、可能なら出来る限り自転車にて通学。
- ⑦健康管理（p15）に以下の約束事を追加する。
  - ・実習開始前の2週間の健康管理表を初日に学生が持参する。
  - ・実習期間中は、健康管理表に学生が記入提出する（併せて、施設側での体調の確認もお願いする）。
  - ・実習後、2週間は健康管理表を継続記入する。

上記の③の実習時間に関しては、通常であれば、9時ごろからの日勤帯で、実習先へ行くことになるが、通勤ラッシュを避けるためと昼食場所の確保が難しいであろうと考え、介護実習Ⅰ段階では、13時から16時まで、介護実習Ⅱ段階は、10時から16時までとした。介護実習Ⅱは介護過程を含み最

終実習となるため、実習時間をI段階よりも長く設定した。④の服装は、本来であれば、制服で必ず通学するように指導していたが、感染予防対策のため、通学着（制服を含む）と実習中の服装（演習着や上着等）を分けることとし、ウイルスを持ち込まない、持ち出さないという指導をするようにした。⑤の持ち物は、学生に使い捨て手袋を渡し、いつでも交換できるようにした。手指消毒スプレーも携帯し、手指消毒できるようにした。また、必要に応じてフェースシールドの使用が出来るように物品を確保するようにした。⑥の通学に関しては、できる限り公共交通機関を使うように指導してきたが、感染予防の観点から、自転車で行ける実習先には、自転車通学の許可をお願いした。

## 2. 学生の行動指針

コロナ禍で実習に行くにあたり、学生自身が感染予防対策を遵守できるように文章化し、実習前、実習中、実習後の行動指針としてまとめた。

以下の行動指針を遵守する。その証として本人、保護者の署名捺印のある『同意書』を施設に提出、違反した場合は実習停止とする。

- ①実習開始2週間前から、感染のリスクの高い場所への出入り、多人数での飲食、アルバイトを全面的に禁止する。
- ②実習期間はもちろん、実習を挟んで前後2週間は毎日健康管理を行い、「健康管理表」に記録して提出する。学校側にもGoogleフォームにて「健康チェック表」に送信し報告する。
- ③実習開始の2週間前から実習期間中に至るまで『感染を疑わせる症状』（発熱、風邪症状など）がある場合は学校、施設に迅速に報告する。
- ④手指の消毒、マスクの着用などの感染予防を徹底して行う。
- ⑤感染症に関しては、全て実習施設の指導に従う。

上記の①は、2週間前からの感染リスクを考えアルバイトの禁止を学生に理解してもらうことにした。

## 3. 介護実習計画事項

従来の実習指導と異なる内容をまとめ、実習指導者へ分かりやすく提示した。

- ①実習内容…各施設で内容をご検討ください。今回、評価表は提示しますが、三密回避等、普段の介護実習と大幅に内容を変更して下さっても結構です。
- ②教員巡回指導…リスク回避の観点から、施設訪問を行わず、学生と教員で週に1回LINEのビデオ通話機能にて遠隔で指導を行う。
- ③実習カンファレンス…施設側で介護実習ⅠA（人間福祉学科）、介護実習Ⅱ（人間福祉学科）は2週目に、介護実習Ⅰ（専攻科）は3週目に1回設定してください。実習が終了後、学内でもう一回反省会を実施します。
- ④評価…いつもの評価表を送付いたしますが、今回は三密回避で未実施の項目も多々あると思い

ます。介護実習内容確認表の中で実施した項目で評価してください。実施しなかった内容に関しては、斜線を記入ください。

- ⑤実習日誌の指導…例年通り、「要約体」と「逐語訳」を柱にした書き方を少し教えていますが、今回リモート指導のため、本学教員が直接指導するのは実習終了後のことです。毎日提出しますので、少しでもご指導くだされば助かります。

#### 4. 関連事項

コロナ禍での実習であるため、情報共有を密に行うこととした。

- 実習実施におけるコンプライアンスとして本学の介護教育棟(第五学舎・教員・学生)関連での感染情報は逐一全てご報告致します。法人や施設内の感染情報も可能な範囲で学校にお知らせください。
- 全国、大阪府下の緊急事態宣言が出た翌日には実習担当者または担任、学科長からご連絡させていただき、その後のことについては協議いたします。

上記の②の教員巡回指導については、施設の感染リスクを考え、学生とはLINEのビデオを使用したリモートにて巡回指導の機会をもち、施設訪問は自粛した。⑤の日誌に関しては、初めて実習に行く人間福祉学科1回生IAと専攻科介護福祉専攻の介護実習Iは、リモートによる担当教員による指導後、各施設に委任した。

#### ②同意書

施設側に実習生を安心して受け入れてもらうとともに、学生、保護者にもコロナ禍で高齢者施設や障害者施設へいくことのリスクを理解し、意識づけることを目的に同意書を作成した。同意書は、以下の通りである。

大阪城南女子短期大学 専攻科介護福祉専攻  
2020年度 介護実習Ⅰ 同意書

学籍番号		氏名	
記入日	年 月 日		

【重要】下記の項目を熟読し、確認できた場合は、□に✓を入れてください。

- 9月7日(月)～介護実習Ⅰ終了後、2週間後まで毎日健康管理を行い、「健康管理表①②③」に記録することを理解している。
- 介護実習施設での初日オリエンテーション時に、「健康管理表①②」を実習指導者に提出することを理解している。
- 介護実習Ⅰ開始日から15日間、実習施設に出勤時、「健康管理表②」に記入し、実習終了時まで健康管理を行うことを理解している。
- 介護実習Ⅰ終了後2週間、「健康管理表③」に記載することを理解している。
- 介護実習Ⅰ開始までの2週間、および実習期間中に感染を疑わせる症状(発熱、風邪症状など)がある場合の対応について理解している。
- 介護実習Ⅰ開始までの2週間、および実習期間中に、新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者として特定された場合の対応について理解している。
- 手洗い・うがいを徹底し、実習先への通勤時は、マスクを着用することを理解している。
- 介護実習の開始日までの過ごし方にも留意し、不要不急の外出は避けることを理解している。
- 介護実習Ⅰ実習期間中における新型コロナウイルス感染拡大防止の対応については、実習施設の指導に従うことを理解している。
- 介護実習Ⅰ開始までの2週間以内、および実習期間中、健康管理表①②に記載の症状に該当する場合、学校に連絡することを理解している。
- 上記のすべての内容について、理解している。

署名日： 年 月 日

学生氏名(自署) \_\_\_\_\_ 印

保護者氏名(自署) \_\_\_\_\_ 印

### ③健康チェック表

本学への登学日にも実施している健康チェックを、実習に行く2週間前から、表に記入するよう指導し、健康管理を徹底するようにした。

### ④実習内容確認表

新型コロナウイルス感染症拡大により、施設側の実習受け入れに対しても慎重に対応されることも考慮し、本学からも安心して実習生を受け入れてもらえることを考えていく上でも大切であると考え、実習内容に関しては、施設側にどこまでの実習内容で実習をおこなうのか、各実習施設側に判断してもらえるように実習内容確認表を作成した。なお、実習生にも何を体験し、実習できるのか、相互理解できる方がよいと考えた。

### ⑤臨時実習指導者会

毎年、5月中旬に介護実習の受け入れ承諾施設に対して、本学の介護実習に関する内容を伝えるために、介護実習指導者会を開催している。そこでは、本学の実習指導方針や日頃の介護実習に対する要望等を介護実習指導者から聴取している。しかし、今年度の介護実習指導者会を行うにあたり、介護現場で勤務をされている介護実習指導者の方々にとって、緊急事態宣言が解かれた直後のタイミングで会議に参加することはリスクマネジメントの観点から、不適切ではないかと学科会議で検討された。その頃、学内の授業においてもオンラインの形式を活用されていたことから、介護実習指導者会においても、オンラインでの実施を検討することにした。

まずは、実習承諾を受けた実習指導者に、カメラ付きのパソコン環境があるか、Wi-Fi環境があるかを聞き取った。その結果、全ての実習施設にはWi-Fi環境が整っていないことが分かった。そのため、オンラインでの実習指導者会の開催を中止し、ガイドラインを電話で説明する方法にした。この電話での説明を臨時介護実習指導者説明会と位置付けた。

今年度は、コロナ禍におけるガイドラインに即した実習内容であり、例年と変更している内容が多いことから、パワーポイントでその変更部分を抽出し、1枚物とし、指導に当たる際に分かりやすくした。まずは、人間福祉学科1回生の介護実習IAを受け入れる6施設、2回生の介護実習IIを受け入れる4施設、専攻科介護福祉専攻を受け入れる3施設の計13施設に対して、8月上旬にガイドラインを郵送した。その中に、8月19日、20日、21日の3日間で電話連絡可能な日時を記入し、FAXで返信をしてもらった。

この方法で実習指導者への説明に特に支障は生じなかったことから、10月19日（月）から実施した専攻科介護福祉専攻の介護実習IIを受け入れる2施設と人間福祉学科1回生の介護実習IBを受け入れる7施設へ同様の方法を用いて、実習指導者へ電話説明を9月23日、24日、25日の3日間で実施をした。

## 2章 コロナ禍での介護実習

### 2020年度介護実習IA、介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ（前半）開始

介護実習に関する準備が整い、まずは、6月に実施予定であった人間福祉学科1回生15名、専攻科介護福祉専攻6名の実習を開始した。人間福祉学科1回生は、9月7日（月）から9月18日（金）までの10日間、デイケア、デイサービス事業所に通勤ラッシュを避けるとともに、実習施設の負担等を考え、13時から16時までの3時間の実習とした。それに加え、自宅学習として、10項目の調べ学習課題を行い、現場実習3時間、自宅課題2時間半、実習日誌作成として2時間半の実習内容とした。課題は、以下の内容である。

- 1、実習施設の法人で運営しているデイサービス以外のサービスとその内容。
- 2、実習施設先の法人の理念（社会福祉法人、医療法人についても調べること）。
- 3、デイサービスセンター、またはデイケアセンターの役割、目的、特徴について。
- 4、実習施設がある土地の紹介（環境の説明）。
- 5、1日のプログラムと、取り組まれている内容の特徴について
- 6、介護保険法について調べてまとめる・デイサービス、デイケア利用者の利用目的についてネットを使用し調べる。
- 7、レクリエーションプログラムについて、実習期間中の内容を調べる。  
また、そのレクリエーション内容の効果について調べ、まとめる（2、3つ）。
- 8、実習施設での、感染予防対策について、まとめる。
- 9、実習施設の事故予防対策についてまとめる。
- 10、利用者様の利用時の様子をご家族等に連絡する連絡方法について（連絡ノート）の内容について。

専攻科介護福祉専攻は、9月7日（月）から9月25日（金）までの15日間、生活介護事業所、認知症共同生活介護に13時から16時までの3時間の実習とした。それに加え、自宅学習として、アセスメントを行い、フェイスシートを用いて整理する時間として、2時間半、実習日誌作成として2時間半の実習内容とした。

その後、人間福祉学科2回生については、計画通りの日程で9月23日（水）から10月2日（金）までの8日間、介護実習Ⅱ（前半）を開始した。介護実習Ⅱについては、介護過程の展開を行うことから、実習時間はその他の学年と同様に通勤ラッシュを考慮しつつ、なるべく1日の活動内容も学ぶことができるように、10時から16時の5時間とした。前半の実習では、アセスメントを中心とした実習となることから、帰宅後の取り組みとして、介護過程用紙の情報収集用紙の記録やニーズの抽出、実習日誌の記録の時間として、3時間取り組む課題とした。

全ての学年に共通することとして、新型コロナウイルス感染予防対策としては、ガイドラインに記載している内容にある健康管理表①を実習初日に2週間前から記入した表をオリエンテーション時に実習指導者に提出し、実習生の体調を確認できるようにした。そして、実習期間中も同様に健



健康管理表を記入し、体調管理に努められるようにした。

その他、介助時に用いるものとして、ビニール手袋を1箱、手指消毒スプレー1本、フェイスシールドを学校から支給し、必要に応じて、学生が使用できるようにした。また、不特定多数が集まる場所へ行くことや、実習開始2週間前からのアルバイトを禁止し、感染予防対策に十分に努めるように、指導を行った。さらに、通常であれば実習先への行き帰りは本学指定の制服を着用することになっているが、感染予防対策の観点から、毎日洗濯できるように、私服着用可能とした。実習施設においては、本学演習授業で使用している演習着を着用とし、毎日洗濯するように指導を行った。

実習中の担当教員から実習生に対する指導は、教員の訪問による実習施設の感染リスクを軽減する観点から、施設訪問を自粛した。そのため、学生への指導は、通常の授業で活用しているLINEのビデオ通話を活用した。担当教員と実習メンバーのグループを作り、ビデオ通話を用いて、実習巡回指導を行った。実施日は、実習の初日、または翌日の16時以降にビデオ通話を行い、初日に行われたオリエンテーションの報告や質問等を聞く機会を設けた。また、翌週にも1回、ビデオ通話日を設け、実習に関する疑問や質問ができる時間を実習終了後の16時以降に設けた。

実習指導者に対する連絡は、担当教員から実習の受け入れに関するお礼を伝える内容を実習初日または翌日に電話連絡した。その際に、通常であれば初回巡回時に実習指導者に手渡ししている実習評価表が郵便で届いているかを確認した。また、巡回を自粛する分、指導等で何か困ったことがあった場合はすぐに学校へ連絡くださるようにお伝えをした。さらに、実習終了後、再び、実習指導者様に電話連絡を行い、実習中の様子や指導する中で気が付かれたことなどのヒアリングをし、学生の実習状況の把握に努めた。

上記の期間においては、特に問題もなく、全ての学年が実習を終了することができた。

#### 2020年度介護実習Ⅱ、介護実習IB、介護実習Ⅱ（後半）開始

10月19日（月）からは、人間福祉学科2回生の介護実習Ⅱ（後半）、10月20日（火）からは、人間福祉学科1回生の介護実習IB、専攻科介護福祉専攻の介護実習Ⅱを開始した。この時期になると新型コロナウイルスの感染拡大も少し減少傾向になってきていたこともあり、実習時間を全学年、10時から16時までの5時間とした。前回の実習と同様に、実習開始となる2週間前からのアルバイトを禁止し、健康チェック表への記入を行うとともに、3密対策をしながら実習準備を整えた。

前回の実習では、実習日誌の指導がほとんどできなかったことや、実習状況を教員が把握することが困難であったことから、帰校日を設け、対面での実習指導を行うことにした。その指導内容としては、最初の1週目は、LINEのビデオ通話を使用し、初日に行われたオリエンテーションの報告や実習内容の確認や実習に関することの質問を行う目的として、初日もしくは翌日の18時以降に学生と調整をし、従来実施している初回巡回の代替えとした。その後は、週に1回、帰校日を設け、担当教員別に実習日誌の指導や、中間カンファレンス、介護過程の進捗状況に応じた個別指導など、その実習段階に対する担当教員からの指導を行った。また、個別の発表等を通じて、学生間での実

習内容を共有できる時間を作った。

10月28日（水）、実習施設の入居者に新型コロナウイルス陽性反応が出たと施設の方から学校へ連絡が入る。その方が入居しているフロアで実習している学生がいたことから、濃厚接触者に該当するのか保健所からの連絡待ちとなるため、学生を自宅待機とした。別のフロアで実習をしていた学生も、自宅待機とし、保健所の指示を待つことにした。また、別棟での実習をしている学生もいたため、施設より一度、その学生達の実習をどうするのかを検討して欲しいと連絡が入る。施設としては、職員の行き来は無く、別棟であること、入り口も違うことから、そのまま実習を継続してもよいと考えているとのことであった。すぐに学生と連絡を取り、状況説明と保護者に話をしてもらい、継続をするかを確認した。学生からは、接触が無いことから、そのまま継続したいとの意向であった。

翌朝の10月29日（木）、緊急で対応会議を行った。保健所の指示は来ておらず、同フロアで実習をしていた学生の保護者もこのままでは安心できないと訴えていたこともあり、まずは、学生の感染状況を確認することが先決と判断し、PCR検査を受けてもらうことにした。その日の午後に検査可能な病院が見つかり、受けてもらうことができた。実習に関しては、実習施設より、このまま実習継続は困難であることが実習指導者より連絡があり、学内実習へ変更することを、別棟の実習については、そのまま続行することを緊急会議で承認を得た。さらに、この内容については学科長から学内の危機管理委員会で報告をし、学校としての情報共有が行われた。

10月30日（金）15時頃に実習施設より、再び電話連絡が入り、陽性反応の入居者のフロアで実習をしていた学生も濃厚接触者に該当すると判断されたとのこと。昨日、学校からPCR検査を受けてもらっており、もうすぐ結果ができることお伝えする。16時半頃、PCRの検査の結果が陰性であったと学生より連絡が入り、そのことを実習施設にも報告をする。

11月2日（月）16：00、実習先から再び、連絡が入る。今回の入居者より新型コロナウイルス感染の陽性者が出たことから、法人全体で会議が開かれ、当分、全ての実習を中止するとのこと。別棟で実習をしていた学生も実習中止となる。これに伴い、すでに学内実習に変更した学生と同様に、学内実習へ変更することを学科教員に連絡をし、学科の対応として承認を得る。本学のコロナ禍におけるガイドラインの4、関連事項により、施設内での感染情報の共有ができ、対応することができた一例である。

11月4日（水）、5日（木）、6日（金）は、担当教員との最終カンファレンス、介護計画実施についてのロールプレイ、映像教材を用いた対象者理解、制度に関する調べ学習などを学内プログラムとして実施した。

### 3章 実習後、施設へのアンケート

今回、実習施設はコロナ禍の状況において、本学の実習ガイドラインや同意書に沿い、介護実習

の受け入れを承認して、今年度の実習内容を検討する際に、実習施設先のご意見を反映すべきではないかと教員間で議論となった。しかし、学内においてもオンライン授業を並行し、授業時間を短縮した状況の中で、全ての実習先にコロナ禍における介護実習に関する意見を求めることは時間的に困難な状況であったため、学科長と実習エリア担当教員との検討会議を行い、その後、学科会議で承認を得て、介護実習を実施した形となった。実習後の実習指導者との会話の中で、受け入れ先の実習施設から、実習生への指導がいつも通りに出来なかったことを心配される声が複数聞かれた。このことから、コロナ禍において、実際に介護実習を受け入れた実習施設に対して、不安に思ったこと、困ったこと等、アンケート調査を実施し、振り返り今後の介護実習の在り方を検討することにした。

### コロナ禍における実習受け入れ後アンケート方法

実習後、以下の内容を実習受け入れ施設を対象に下記の項目でアンケート調査を実施した。調査方法は、各施設にアンケート実施に関する依頼文を郵送し、その文章内に調査項目のQRコードを掲載した。QRコードを読み込むことで、アンケートページが開かれ、回答できるGoogleフォームでの調査を用いた。問15として、施設で使用可能なメールアドレスを聞いた。

- 1、施設名
- 2、実習受け入れ学年
- 3、施設でWi-Fi環境がありますか。
- 4、施設でリモートできる環境ですか。
- 5、実習時間、時間帯は適切でしたか。  
5にて、適切でなかった。を選択した方 その理由をお聞かせください。
- 6、今年度、コロナ禍において実習を受け入れていただいた理由についてお聞かせください。
- 7、介護実習内容確認表は指導に活用されましたか。  
7にて、はいと回答された方にお尋ねします。どのような場面で活用されましたか。
- 8、コロナ禍における介護実習ガイドラインを読んで、今年度の実習内容は伝わりましたか。  
その理由をお聞かせください。
- 9、介護実習同意書は必要でしたか。  
その理由をお聞かせください。
- 10、実習を受け入れることで心配であったことはありますか。
- 11、コロナ禍において、施設内にて実習指導で変更や調整した内容を教えてください。
- 12、教員が実習巡回をリモートにしましたが、適切だったと思いますか。  
その理由をお聞かせください。
- 13、今後の要望をお聞かせください。
- 14、今年度の実習で受け入れをしていただいた感想をお願いします。
- 15、施設にて連絡可能なメールアドレスをお教えてください。

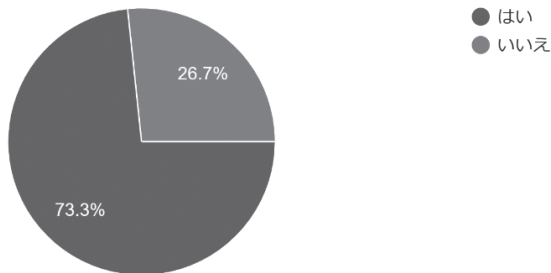
以上、15項目のアンケート内容とした。

### アンケート回答率

今年度、実習受け入れ施設は、人間福祉学科の介護実習ⅠAは6施設、介護実習ⅠBは7施設、介護実習Ⅱは4施設、専攻科介護福祉専攻の介護実習Ⅰは3施設、介護実習Ⅱは2施設で、合計22施設へのアンケートを実施した。回答は15施設（そのうち法人でまとめて返却が3施設）で回収率は81.8%であった。以下項目を3以降の回答内容について順を追って見ることにしよう。

#### 3、施設でwifi環境がありますか？

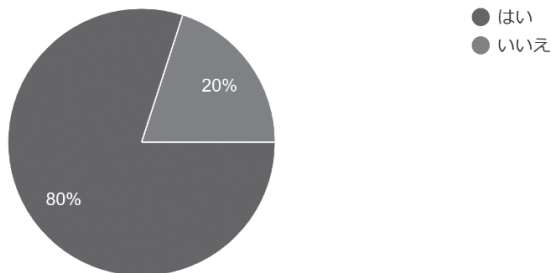
15件の回答



7割の施設がWi-Fi環境があるという回答であった。

#### 4、施設でリモートできる環境ですか？

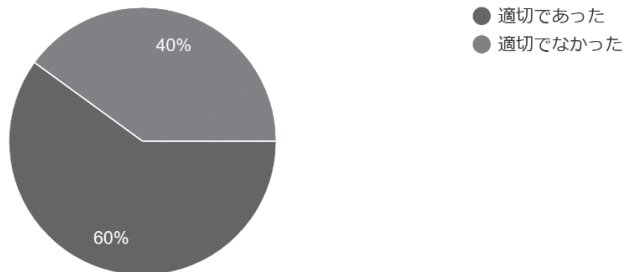
15件の回答



この質問は今後のコロナ禍が来年度も継続して続いた際に、リモートでの実習に関する連携を図る際に必要となってくるため、施設にWi-Fiやリモート環境があるか確認しておきたかった。約8割の施設が「はい」との回答であった。

## 5、実習時間、時間帯は適切でしたか？

15件の回答



### 回答内容

- ・実習時間は制限しなくてもよいのではないのでしょうか？実習前後の体調管理もしっかりしてくださっていたので特に困ったことはなかったです。
- ・通所だったので、1日の方が流れは伝わったと思う。
- ・当所はリハビリが午前に行われるため、昼からの短時間実習ではリハビリ体験が全く出来ない。
- ・毎日13:00～ではなく、午前も実習時間の設定がある方が良かった
- ・午後からだ、全体の流れやサービス内容を体験するのに、不十分ではないかと思われます。

時間帯は、短時間にするほうがよいと考え設定したが、受け入れる施設側としては、一日の流れに沿っての指導が難しい、短時間での指導に例年よりも工夫が必要であり、施設側にも負担をかけることとなった。

13時から16時の3時間の実習時間を設定したが、6施設中3施設から適切でなかったと回答を得た。また、10時から16時までの5時間の実習時間を設定したが、3施設中2件が適切でないと回答であった。本学としては、通勤ラッシュを避けることと、昼食時の場所の確保が難しいと思い、この時間帯で設定をした。しかし、施設側としては、一日の流れを理解することが望ましいとの考えが回答からみられた。このことから、今後の時間設定に関しては、検討していく必要がある。

## 6、今年度、コロナ禍において実習を受け入れていただいた理由についてお聞かせください。

### 回答内容

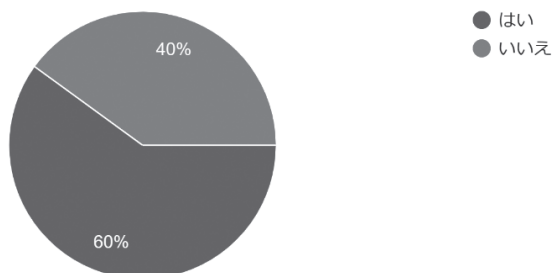
- ・お断りする事業所が多い中で、お役に立ちたい想いでした。
- ・介護実習の単位が取得できないと卒業できなくなると学生の子達の将来に直結しますので、少しでもお役に立てればと思い実習を受け入れさせてもらいました。

- ・介護技術や、コミュニケーションの仕方、ご利用者と直接接することで学びを深めてもらえる  
と考えるため。
- ・コロナ禍において、各学校も実習の受入れ先の確保に苦慮しているため。
- ・大学側がきちんと感染防止対策を講じていたから。
- ・実習前の行動管理など感染対策を講じていたため。
- ・貴校での感染症対策行動指針で実習に関する配慮が理解出来た。
- ・施設内で感染症対策実施し実習までコロナ感染症発生していなかったので受け入れました。
- ・毎年受け入れているし、コロナの対応もしっかりされていたので受け入れさせていきました。
- ・現場をあまり知らずに就職した時のリアリティショックを出来るだけ起きないようにしてあげ  
たいと思っているので。
- ・障害者が施設ではなく、地域でその人らしい暮らしをしていることを知ってもらうため。また、  
人材募集にも繋がるため。
- ・法人として、感染症対策を徹底しており、また貴校の対策も徹底されているため。
- ・コロナ予防を徹底され、当施設の受け入れ条件を了承して頂いたため。
- ・学校側の対策がきちんとしてあり、信頼できるから。
- ・法人の方針。with コロナなので共に助け合い、支え合うことが重要だから。
- ・介護職育成のため。

毎年、介護実習を受け入れていることから受け入れたいという施設側の回答が多く、コロナ禍での感染予防対策もおこなわれていることから 実習受け入れに繋がったようである。人材育成と人材募集にもつながることから、施設側としても介護実習を受け入れていただいたのではないかと思う。

#### 7、介護実習内容確認表は指導に活用されましたか？

15件の回答



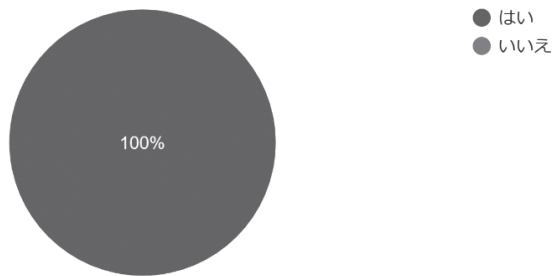
### 回答内容

- ・ 経験があることについては確認し、ないことについては実習時間に余裕があればチャレンジする目安にした。
- ・ 学生への質問や指導が行いやすかったです。
- ・ 職員間での情報の共有のため。
- ・ 実習中の指導の目安として、活用しました。
- ・ すぐに、内容について確認ができ、振り返りができる。

介護実習内容確認表を指導に活用したと回答した方は、6割であった。活用方法としては、目安として使用したということであった。

### 8、コロナ禍における介護実習ガイドラインを読んで、今年度の実習内容は伝わりましたか。

15件の回答



### 回答内容

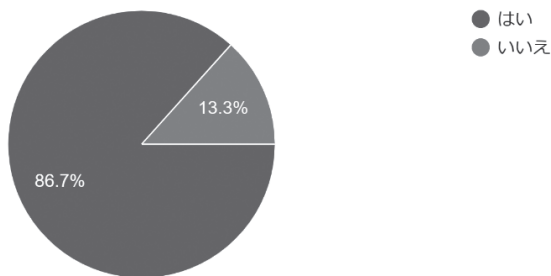
- ・ 内容が整理されており、まとまっていた。
- ・ ある程度伝わった。不明点は電話で学校と確認を行なった。
- ・ 毎年頂ける実習マニュアルが役にたっています。
- ・ 具体的に学生が感染症予防対策を行いながら実習できるように考えている事が理解できました。
- ・ 実習時間の短縮や学生の行動指針などよくわかった。
- ・ 感染対策をしっかりとっていること。
- ・ 検温や体調管理、アルバイト規制など色々と工夫が感じられました。
- ・ 今までの実習時間とは大きく変わるため、何を重点的に実習に取り組んでいただければ良いかを確認することができた。
- ・ 詳細が明記されていました。
- ・ 細かく記載していただいていたので、わかりやすかった。

- ・ 貴校がどのような対策をとっているか、学生の行動状況も確認でき、分かりやすい内容でした。
- ・ 把握できました。
- ・ 対策等、細かくされていて、事業所でのコロナ対策にも活用ができるのではないかと感じる事ができた。

ガイドラインを提示することで、コロナ禍における実習内容や感染対策が明確となり、学校としての方針が伝わりやすかったと考えられる。

#### 9、介護実習同意書は必要でしたか。

15件の回答



#### 回答内容

- ・ 実習中の態度や節度を合意してもらえ、一つの基準として使用させていただきました。
- ・ 施設での状況確認作業が省く事ができた。
- ・ 実習を行なうにあたって必要だと考えている。
- ・ コロナ禍で高齢者の命にも関わる事なのでしっかり内容を遵守する同意書は必要だと思います。
- ・ 同意の上での実習である事を確認出来る為。
- ・ 実習期間中、実習生自身が感染予防を行うきっかけになりそうだから。
- ・ 保護者の方にも、高齢者施設へ出入りする事に対するリスクと責任を知っていただけるから。
- ・ 確認が取れるので
- ・ 同意書をとってもらっていることで、施設としては安心感がある。また学生の感染予防の意識が高まると思われます。
- ・ あった方が学生の意識付けになると思う。
- ・ 実習の受け入れにあたり、同意書は書いて頂いています。

同意書が必要であったと回答した方は約9割であった。

実習を受け入れるにあたり、学生に対する感染予防対策についての意識づけ、また、保護者に



対しては、リスクと責任を知ってもらうことができるなどの意見があった。

#### 10、実習を受け入れることで心配であったことはありますか。

##### 回答内容

- ・学校の先生の指導がないことで、正しく指導ができているのか？それがわからず不安でした。
- ・介護記録やカンファレンスなど
- ・体調管理。実習生が実習することに対する不安がなかったか。
- ・実習生に感染させないように、より気を使って感染対策を行った。  
あります。
- ・コロナ感染のリスクが一番心配でした。
- ・ご家族の面会を禁止している中で、万が一学生から感染症が蔓延になった時のこと。
- ・通常の通所ではなかったことで、職員も分散している為、しっかりと実習指導が行えるか？ということ。
- ・貴校の対策、学生の行動が文書で示されていたため、心配は少なかったです。
- ・感染予防をされているので、大丈夫でした。
- ・学生自身が、どこまで感染症に対して危機感と責任感を持っているのかについては、実習期間中も心配していた。
- ・1日の実習時間が短すぎて、逆に感染予防などが出来ているのか？心配であり、ある程度ゆったりしたタイムチャートで行動することが感染予防にも効果的では？

感染リスクが一番の心配されている所であったと思う。学校としても引き続き、感染リスクの学びを強化し、施設へ理解いただける対応をしたいと考える。

#### 11、コロナ禍において、施設内にて実習指導で変更や調整した内容を教えてください。

##### 回答内容

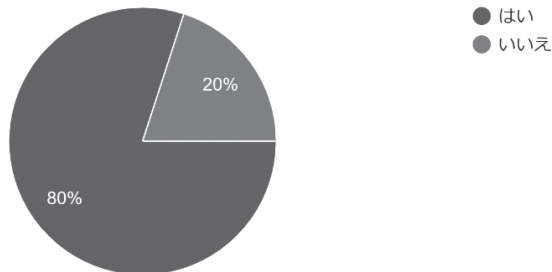
- ・体験する部屋をなるべく限定した点。通常なら、さまざまなサービス、作業室で実習を実施している。
- ・実習指導で変更した点はありません。指導内容、指導技術等は今まで通りで行いました。
- ・日頃以上に、手洗い消毒などの感染症対策のみ。  
手洗いや消毒、食事以外の場面では常時マスク着用など。
- ・密を避ける配慮を行った。
- ・感染症予防対策実施していても今回実習中にコロナ感染者が発生し。学校へ状況報告と実習中止の連絡・中止になった分の振りかえり実習についての相談。

- ・特に変更したところはありません。時間内で指導できる範囲で行いました。
- ・入浴介助だけ行わず、見学にした。
- ・コロナ禍で、通常通所ではなく、男女分かれての分散通所だった為、グループホームなど日中支援先にも行ってもらった。
- ・大きな変更はなく、感染症対策の徹底を心掛けました。
- ・特別には変更していない。
- ・1日の流れで実習できなかったのも、わかりにくいかもしれないがパーツ、パーツで割りきって実習をさせてもらった。
- ・他フロアとの非接触での実習へ変更。

コロナ禍で、密になることや非接触、実習場所を限定するなどの実習内容の調整を検討いただいたことがわかった。実習指導に関しては、特に変更していない、今まで通りの指導をしたという回答があった。

## 12、教員が実習巡回をリモートにしましたが、適切だったと思いますか。

15件の回答



## 回答内容

- ・感染予防の観点から、妥当ではないか。と思います。
- ・リモートは問題ありませんが、先生との連携が取れず…どのような指導が入っているのかがわかりませんでした。
- ・直接先生とお会いして実習生のことなどお話をさせてもらいたかった。
- ・リモートにした影響を感じなかったから。
- ・感染リスクの減らすためには必要だと思います。
- ・教員の感染症予防につながった。
- ・実習生がリモートでも教員に相談報告できる時間があるのはいいことだと思います。

- ・介護課程用紙3を使用する実習は、最低でも中間あるいは最終のカンファは、記入した書類に対してどのような指導をするのか知りたいので出席してほしい。
- ・コロナ禍では適切だと思う。
- ・学生からするとやや不安はあったかもしれませんが、この時期ということを考慮すると適切だと思います。
- ・最小人数の出入りになるので、感染予防対策になります
- ・感染リスクを軽減するためにはとても有効であった。場所の確保も難しいので。ただ、先生にどんな指摘をされたのか、実習内容の変更が必要なのか等を学生さんから知ることができなかったので、有意義な実習期間になったのかが気になっている。
- ・密になりにくい場所の確保が不要。
- ・どちらでも良いと考える。

リモート巡回は妥当との回答が多かった。しかし、いつもならば教員が、巡回やカンファレンスで、学生に指導している内容は、施設側に伝わりやすいのだが、今回のリモートで教員が学生に指導した内容等は、必ずしも十分に施設側に伝わってはならず、今後はどのように指導をしているかを伝える工夫が急務であると実感した。

### 13、今後の要望をお聞かせください。

#### 回答内容

- ・今後とも、変わりなく実習は随時受け付けております。
- ・先生と実習施設として言っていることに矛盾が生じてしまうと学生がわからなくなってしまう可能性があるため、指導の内容等を学校側と実習施設側が連携を取ればありがたいです。
- ・感染症対策として、先生の巡回がなかったと思うのですが、学生からしても直接会って指導をしてもらいたかったと思います。
- ・施設としても、直接先生とお会いしてお話したかったです。また実習時間に関しては、時差ができたならよかったと思います。
- ・引き続き感染対策をしっかりとって頂ければと思います。
- 引き続き感染症予防をしながら施設の状況に合わせて実習相談お願いいたします。
- ・特に要望はございません。よければご協力させていただきます。
- ・来年も可能な限り、実習生受け入れさせていただきたいと思います。
- ・特に要望はありません。今後も感染症対策をとりながらの実習で、貴校、学生にも負担があると思いますが、よろしくお願い致します。
- ・重点的に、実習を受ける項目で実習時間の調整ができればと考えます

- ①実習時間を、例えば9:00～12:00、12:00～16:00などにしてほしい。
- ②リモート実習巡回で教員から指摘のあったことについては、学生から知らせてほしい。
  - ・期間より、1日の実習時間は実習先の職員と同じが望ましい。
  - ・先生の巡回指導が施設でなかったため、実習担当者との連携が必須と感じる。
  - ・今回のように細やかな電話でのやりとりも、必要かと思いました。

今回、要望をお聞き、施設側の考えが理解できた。学校側が学生にどのように指導しているかの内容は、施設側にも伝えることができるように検討していきたい。

#### 14、今年度の実習で受け入れをしていただいた感想をお願いします。

##### 回答内容

- ・通常であれば、体験できる部分を制限しながらではありましたが、実習の意味として、コロナの状況を踏まえた現場での対応や対策を肌で感じてもらえることが1番の実りではないかと思います。学生様に伝わっていれば、幸いです。
- ・コロナ禍で感染の部分が不安ではありましたが、こちらが心配している部分をしっかりと学校が決めてきてくれたので、安心して受け入れることができました。また学生達も学校で指導されていることを守り実習態度も良く安心して利用者様と関わってもらうことができたと思います。
- ・三人とも、いつも笑顔で実習が「楽しい」と言ってくれていたのが働いている私たちはとても嬉しく思いました。介護技術やコミュニケーションなど、実習でしかできないことを学んでいただけて良かったです。保育の資格をお持ちですが、高齢分野にも興味を持っていただけたら幸いです。
- ・コロナ禍の影響、また各学校の学生数の減少等に伴って、実習を受入れる機会も少なくなり、改めて実習という機会を通じて私たち自身が仕事の楽しさや魅力を伝えていくことの大切さを感じました。
- ・閉塞感が少し緩和した。この状況下できていただき感謝です。
- ・体調を崩す事なく、無事に終えることができ安心しました。
- ・短時間の実習で逆に内容の濃い指導ができたかもしれません。食事介助の実習がおやつの時間しか出来なかったことが残念です。
- ・感染症蔓延で大変な時期ですが、少ない時間・少ない期間でも介護福祉士の実習は、必要だと思っているので、受け入れをしてよかったと思っている。
- ・コロナ禍で実習受け入れでしたが、現場を知ってもらう、当事者と関わってもらう事は何よりも経験になると思います。また、受け入れ体制も来年度に繋げて行きたいと思いました。

- ・ 貴校における対策が分かりやすく文書で伝えていただけたので、結果として安心して実習を受け入れることが出来ました。今後もよろしくお願い致します。
- ・ 新しい取り組みをしなければいけないので、受け入れ側も今後の運営について考える機会となりました。
- ・ 学校側の対応に、とても感謝しています。特にアルバイトの制限については実習期間前から開始していただいていたことで、無自覚・無症状の場合の感染リスクを防ぐことに繋がったと感じています。
- ・ 例年以上に疲れました。
- ・ 介護に携わる人材が、たくさんできると良いなと思います。

このアンケートの結果から、感染リスクが不安ではあったとは思いますが、介護福祉士を育てていくためには、現場での学びが必要不可欠であると考え、快く受け入れに至った施設が多かった。今回の実習はコロナ禍であっても、学校としてガイドラインや同意書を整え、感染予防対策を行うこと、今までの関係性で、実習生を受け入れてもらうことができた。

今までは、対面で実習指導を行ってきたことから、実習施設のメールアドレスを聞く機会がなかった。しかし、依然続くコロナ禍においては、今後も、実習の事前事後指導を含めた、オンラインを活用した情報の共有も行っていかなければならない。

実習受け入れ施設は、高齢者や障害者の生活の場であることから、学校側の感染予防対策はもちろんのこと、学生へ事前の指導にて、コロナ禍で実習をすることのリスクを考えて指導されているかは、気がかりな点であろう。今回、作成した同意書やガイドラインはコロナ禍で日々状況が変化しているため、その状況に応じてガイドライン等の変更していく必要がある。

実習施設側と学校側がお互いに調整を行いながら、状況を判断し、コロナ禍であっても、今回のように現場実習できると考える。また、今後は介護実習の在り方は、一方的な学校からの要望ではなく、施設側の意見や要望を取り入れながら、共に作り上げていくことが求められる。そのため、アンケートを実施し、施設の意見や要望を知ることでもでき、課題も見えた。

## おわりに

介護福祉士の仕事は、新型コロナウイルス蔓延下、緊急事態宣言下であっても、適切な感染防止対策を行った上でのサービス継続が求められる。介護実習においては、学内実習に切り替えることも可能であった。しかし、短時間であっても現場での経験ができることは、重要であると考えた。その理由としては、現場で感じて学ぶことにより、介護観の構築や介護技術の習得は必要不可欠であり、現場で施設職員からの助言や指導の影響力が大きく学生の成長に繋がるからである。今回の

実習後の学生の実習成果発表から痛感し、それは、利用者との関わりを通して、コロナ禍での実習施設の現状を知り、そこから学ぶことができていたからである。

これからの施設介護の在り方は、コロナ禍であっても、利用者と直接関わり、継続させていかなければならない仕事である。今からコロナ禍で、働いていく未来の介護福祉士としては、その現状を知っておかなければならない。今回は、重要な学びの機会となったのではないかと考える。施設でコロナ禍での感染予防対策を考えながらも、現場実習で実際に学んだことはこれからのコロナ禍で働く強みになったのではないかと思う。

## 謝辞

本稿の執筆にあたり、コロナ禍において実習を受け入れ、またアンケートにご協力いただいた実習施設へ感謝申し上げます。

末筆ではございますが、コロナ禍におけるガイドライン、同意書の作成にあたり、本学人間福祉学科の前田崇博教授にもご尽力いただきました。厚くお礼申し上げます。

(ながはし さちえ：専任講師)

(ただ れいこ：専任講師)

(せ しほ：専任講師)